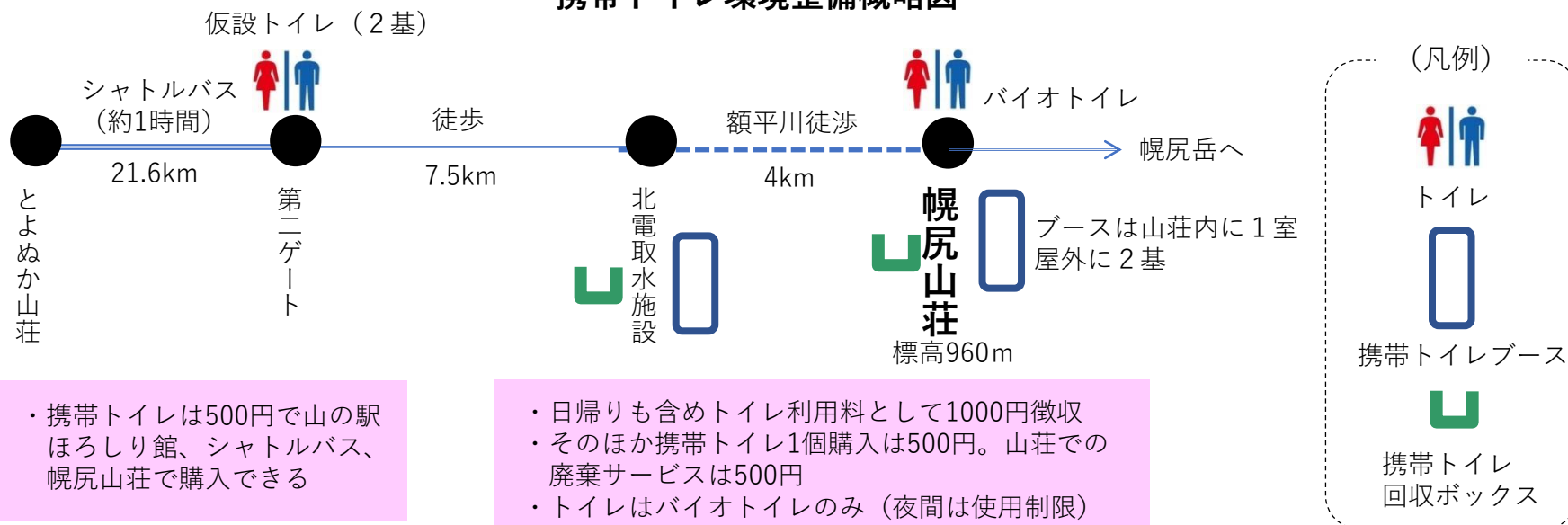


# 幌尻山荘とトイレの調査票 (1/4)

調査年月日：2023.9.23 調査員：仲俣善雄・城石謹爾

<input type="checkbox"/> 小屋名：幌尻山荘 (平取町エリア内)	<input type="checkbox"/> 所有者と担当：平取町役場 商工観光課			
<input type="checkbox"/> 連絡先：01457-3-7703	<input type="checkbox"/> 実際の維持管理：(一社)平取町山岳会 01457-3-3469			
<input type="checkbox"/> 建設年：1965年 (S40年)	<input type="checkbox"/> 定員：45名	<input type="checkbox"/> 何階建か：2階	<input type="checkbox"/> 水：あり (沢水)	<input type="checkbox"/> ストーブ：あり (燃料：薪)
<input type="checkbox"/> 山荘利用期間：7月1日～9月30日		<input type="checkbox"/> 利用料金(一泊一人)：2,000円		
<input type="checkbox"/> 幌尻山荘までの交通手段：幌尻岳登山口に通ずる林道は、一般車両乗り入れ規制。とよぬか山荘から出発するシャトルバスに乗り、登山口 (第二ゲート) まで移動。シャトルバス料金は往復5,000円。第二ゲートから林道を7.5km歩くと北電取水施設に着く。ここから額平川を徒渉して幌尻山荘へ。山荘の利用は完全予約制。				

## 携帯トイレ環境整備概略図



・携帯トイレは500円で山の駅ほろしり館、シャトルバス、幌尻山荘で購入できる

・日帰りも含めトイレ利用料として1000円徴収  
 ・そのほか携帯トイレ1個購入は500円。山荘での廃棄サービスは500円  
 ・トイレはバイオトイレのみ (夜間は使用制限)  
 ・北電取水施設の回収ボックスでの廃棄は無料



第二ゲートの仮設トイレ



北電取水口のトイレブースと回収ボックス (横)



幌尻山荘



幌尻山荘のバイオトイレ



第二ゲートの休憩小屋



北電取水口のテントブースと回収ボックス



山荘屋外の携帯トイレブース

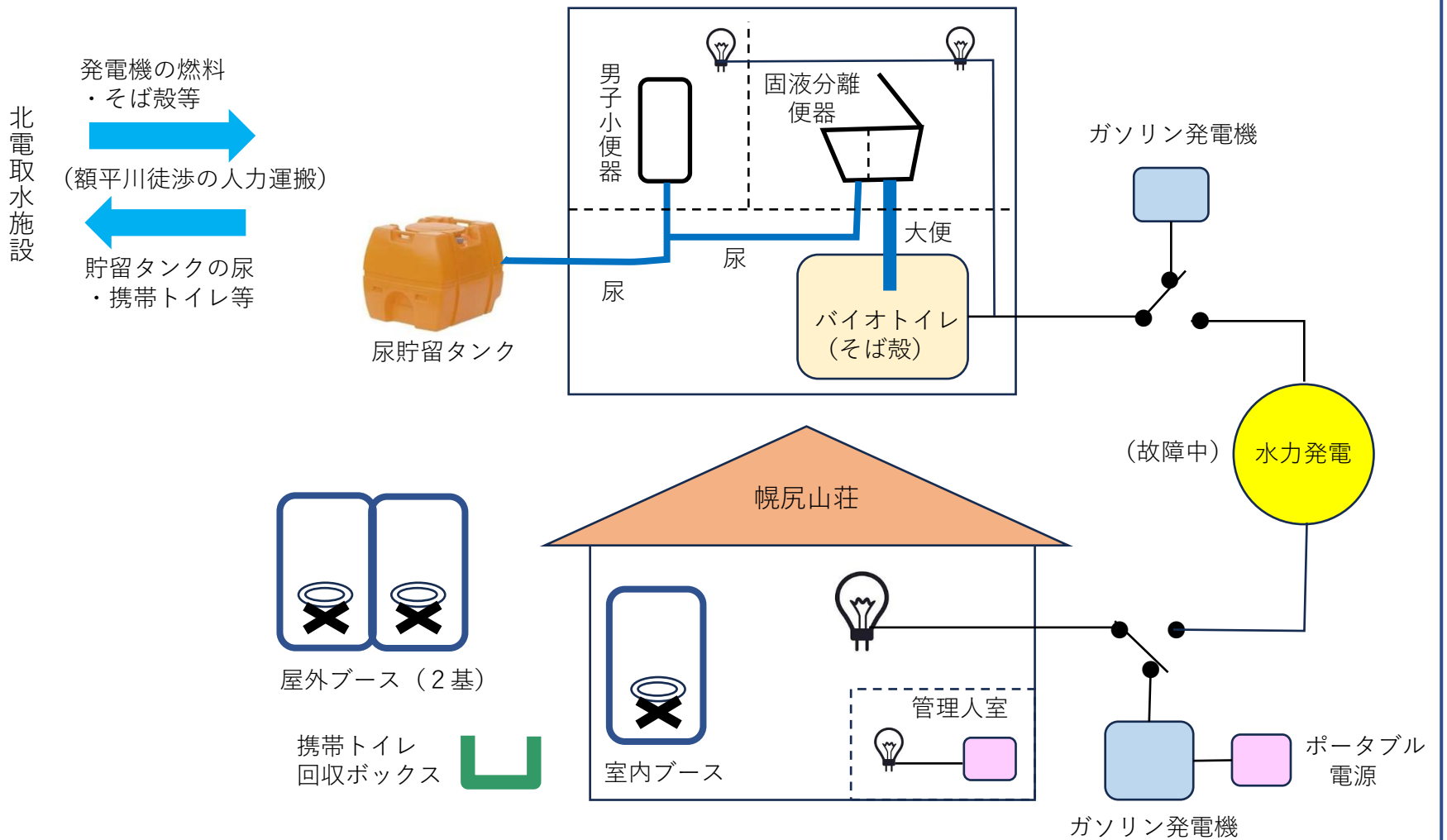


山荘室内の携帯トイレブース

バイオトイレ	<input type="checkbox"/> 建設年：2006年10月	<input type="checkbox"/> メーカー大央電設工業 (株)	<input type="checkbox"/> 方式：R21 (そば殻)	<input type="checkbox"/> 電源：水力発電
	<input type="checkbox"/> 洋式・男女共用・固液分離 (1室) <input type="checkbox"/> 男子小便器 (1室) <input type="checkbox"/> トイレットペーパー：あり			
	<input type="checkbox"/> トイレの清潔度：(きれい) まあきれい きたない ひどくきたない (具体的に)			
	<input type="checkbox"/> 臭い：する 少しする (殆どしない) <input type="checkbox"/> 換気扇：(あり) なし <input type="checkbox"/> 特記 (利用数は特に制限していない)			
登山口仮設トイレ	<input type="checkbox"/> 設置場所：第二ゲート (登山開始地点) <input type="checkbox"/> 基数：2基 <input type="checkbox"/> 男女共用 (洋式)：簡易水洗			
	<input type="checkbox"/> トイレットペーパー：あり <input type="checkbox"/> トイレの清潔度：(きれい) まあきれい きたない ひどくきたない			
	<input type="checkbox"/> 臭い：する 少しする (殆どしない)			



携帯トイレとバイオトイレのシステム図 (現状)



■第二ゲートの仮設トイレ



トイレットペーパーあり



右に簡易水洗の足踏みポンプ



簡易水洗の水注入口



簡易水洗用の水 (沢より導水)

■北電取水口の回収ボックス (3個)



■幌尻山荘の水力発電機



水力発電小屋



水力発電装置

■幌尻山荘の屋外携帯トイレブース (2基)



携帯トイレブース内



携帯トイレの使い方 (ドア)

■幌尻山荘の携帯トイレ回収ボックス





■ 幌尻山荘のバイオトイレ



男子小便器



洋式便器



固液分離便器



トイレ紙回収箱



そば殻攪拌用の電源ボタン



バイオトイレの装置



そば殻と攪拌スクリュー



可搬型発電機

■ 幌尻山荘の室内携帯トイレブース



ブース入口ドア



トイレをブース室に改造

■ 山荘 (1階)



ストーブと台所

■ 山荘 (屋外)



山荘用発電機とポータブル電源

■ スターリンクのアンテナ



管理人とツアーガイドの緊急時連絡用  
電話・インターネット回線

利用料13,000円/月  
衛星電話と異なり、LINEを使った通話は  
タイムラグが生じる事がなく、円滑なやりとり  
が出来るとの事であった。

特記事項

2023年9月23日に平取町山岳会副会長の山木正生氏に幌尻山荘まで案内していただき、幌尻山荘のし尿処理についてヒヤリングした。その内容を記述する。

- ① し尿の担ぎ下ろし量を少しでも少なくするため、2022年度、携帯トイレ環境を整備して試行実施。  
山荘屋外の仮設トイレ2基と小屋内トイレを「携帯トイレブース」に変更。バイオトイレはそのまま運用。  
携帯トイレ回収ボックスは、北電取水施設に2個と幌尻山荘に1個をそれぞれ設置した。  
また北電取水口に携帯トイレブースを2基（※木製とテント型）設置。2023年度から携帯トイレを本格導入した。  
※現在、木製ブースの鍵が壊れており、中にテント型ブースを設置している。
- ② オリジナル携帯トイレを山の駅「ほろしり館」、シャトルバス、幌尻山荘にて500円で販売。
- ③ 6月下旬に水力発電機が故障。部品不良で受注生産のため半年はかかる。1カ月間バイオトイレは使用できなかった。  
7月～8月にガソリンを計1600リットルを人力運搬。8月上旬からガソリン発電機とポータブル電源を使って給電を開始、バイオトイレと山荘内照明を復旧させた。発電機は19時30分～朝4時の間は止める。夜間はバイオトイレが使用できないため携帯トイレを使用する。  
(次ページへ続く)

- ④ バイオトイレは1日の1／3は電源を供給していないので、加温不足でそば殻の湿気が多くなり、バイオ菌が活性化しない。そのため、そば殻の追加頻度が多くなっている。人数制限はしていない。
- ⑤ 8月21日から山荘での使用済み携帯トイレの処分を有料（500円）にした。回収ボックスは施錠してあった。無料の時は膨大な量の携帯トイレを北電取水口まで人力運搬していた。有料化以降は登山者自ら北電取水口の回収ボックスまで持って行くようになったため、山荘での廃棄量は激減した。
- ⑥ 発電機は大小合わせて2基。小型はバイオトイレ用、大型は山荘照明・インターネット・衛星電話用。ポータブル電源は山荘用発電機とのハイブリット用と管理人室の照明・炊事・冷蔵用で計2基あった。大型発電機の場合、通常1日あたりガソリン8ℓ×2回＝計16ℓを要するが、ポータブル電源を併用する事で1日10ℓ以内に燃料を節約する事に努めている。
- ⑦ バイオトイレ室の男子小便器の尿と洋式の固液分離便器の尿はパイプで外のローリータンクに貯留。満杯になったら外に置いてあるさらに大きなローリータンクに移す。尿は20ℓポリタンクで人力運搬をし、最終処分をしている。2023年度は20ℓポリタンクを21個人力運搬した。
- ⑧ パトロールは頻繁にしており、コース上では不法に投棄された携帯トイレは無かった。その一方、月2～3回の頻度で山荘内の携帯トイレブースの隅や屋外の目立たない場所に携帯トイレを放置する人がいた。
- ⑨ 北電取水口に小屋がある。その小屋裏に排泄がされ北電は困っていた。今回、携帯トイレブースを設置したことで排泄は無くなった（ブース設置の土地は北電から借用している。北電は一括林野庁から借用している）。
- ⑩ 8月21日からバイオトイレの利用料金を1000円とした。宿泊者にも日帰り登山者にも協力をお願いしている。徴収したお金は水力発電機の維持管理、水力発電が故障した時の発電機用燃料運搬、バイオトイレ用のそば殻の運搬・追加・交換、タンクに貯留した尿の運搬、ブースの維持管理、使用済み携帯トイレの回収と運搬・処分、人力運搬（ボッカ）の日当など諸々の費用に使用する。
- ⑪ 2022年に幌尻岳の途中でテント型携帯トイレブースを設置したが、強風で飛ばされ、回収が大変だった。
- ⑫ 幌尻山荘の2023年の宿泊者数は3,107人
- ⑬ 平取町山岳会のホームページに、トイレのことや活動内容について掲載されている。

（以 上）